

樅の木会 (デンソー山岳部OB会)

'13.7~8 東北の山巡り 報告書

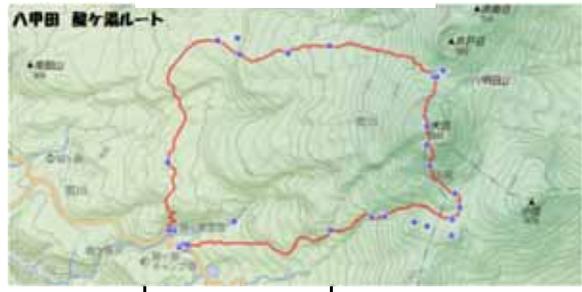
- ・山域・山名 東北(青森、秋田、山形)の山； 八甲田大岳(1584m)、 岩木山(1625m)、 鳥海山(2236m)、 月山(1984m)
- ・期間(年月日) 2013.7.27(土)~8.4(日) (8泊 9日)
- ・目的/方法 東北の山巡り/ラッシュ
- ・参加者 L;渡辺勝利 M;渡辺育子



< 行動記録 >

日付/天候	コースタイム	行 動 記 録
7/27(土) ↓ 7/28(日)	15:40 自宅発  16:40 仙台港 22:30 道の駅「虹の湖」着 (車中泊)	移動(名港~仙台港~東北自動車道黒石IC~道の駅「虹の湖」) 
7/29(月) 晴 視界悪し	4:00 起床 5:20 虹の湖発 5:55~6:00 酸ヶ湯P 7:20~30 地獄谷 8:15~25 仙人岱 8:30 小岳分岐 9:15~30 鏡沼 9:30~45 大岳 10:05~10 大岳避難小屋 10:50 宮様コース分岐 11:05~15 毛無岱休憩広場 12:20 酸ヶ湯温泉 14:00 奥入瀬溪谷見学 17:15 酸ヶ湯温泉着 (酸ヶ湯温泉旅館泊)	<p>コーヒーを沸かして飲む。この道の駅は昨夜は我々だけの独占状態で実に快適だったせいも軽い。今日は快適な登山ができそうだ。酸ヶ湯まで車を走らせ、旅館の上の駐車場に車を止める。まだ朝が早く、数台の車しか止まっていないが、その中には名古屋ナンバーの車もある。我々と同じような考え方を持った人もいようだ。早々に登山支度を済ませ、いよいよ緑濃き八甲田へ分け入る。手術後の体調も考えてポレポレ速度で硫黄臭の漂う地獄谷を越え、岳樺、しらびその森を抜け、仙人岱に出ると辺りが開けてくる。人にもほとんど会わず実に静かな山だ。青森トドマツからナナカマドと植生の変化するのを眺めながら小岳分岐からちょっとしたガレ場を急登し、鏡沼を越えると大岳頂上は近い。漸く辿りついた頂上は小ざっぱりとした何の変哲もないところであるがとりあえず東北の山旅第一座目の登頂に相棒と堅い握手を交わす。頂上にはガスが立ち込め視界は全くないので長居無用。わずかに咲いている可憐な竜胆に慰められつつ早々に稜線を北上、避難小屋に至る。ここで鹿児島から来たという元気な8人組のパーティに出会い歓談。ここでもやっぱり女性が元気だ。ここからは右手に井戸岳、赤倉岳の稜線を見ながら、毛無岱に下る。毛無岱は一面の湿原の中に木道がずっと続いており、あたり一面がキンコウカの群落で埋め尽くされてまるで天上の楽園のようなところである。花を眺め、写真に撮ったり時には休憩しながら楽しんで下っている内にいつの間にか吉田君と会う時刻が過ぎてしまったので急いで電話すると彼は既に酸ヶ湯の駐車場で待っていてくれるとのこと。心は焦れどしかしポレポレペースは変えず酸ヶ湯温泉へ下山。吉田君は首を長くして待っていてくれた。とりあえず堅い握手。風呂に入って汗を流した後、奥入瀬溪谷の見学につれて行ってもらう。車中の会話で彼がこちらで頑張っている感じが感じられうれしく思う。それにしてもさすがに地元民の吉田君のガイドは的を射たものである。車を走らせながら道の両側の見事なブナ林の説明や奥入瀬溪谷の各名所も詳しく案内してくれる。そうこうしている内に雨模様となり、酸ヶ湯に戻り吉田君と別れ正式に「酸ヶ湯温泉旅館」にチェックイン。その日の夕食は部屋出しの豪華版で、酸味の強い温泉にも数回浸かり、ゆっくり寛ぐことができた。</p>

< 酸ヶ湯コース >



7/30(火) 晴	9::00 22::15	酸ヶ湯発 嶽温泉	移動(ねぶた制作見学～三内丸山遺跡～斜陽館～竜飛岬～嶽温泉)
夜半に雨 7/31(水) 曇り	5::30: 7::50: 8::00 8::20 9::05: 9::15: 9::55～10:35 11::00: 11::10 11:50 12:10 14:00～10 15:00～20 17:30	(車中泊) 起床 嶽温泉発 岩木スカイライン入口 8合目駐車場 リフト乗車 リフト降車(鳥海山) 岩木山 鳳鳴ヒュッテ 8合目分岐 8合目駐車場 岩木スカイライン入口 千畳敷 白神岳登山口 男鹿半島着 (男鹿グランドホテル泊)	<p>昨夜はちょっと到着が遅れ、嶽温泉の足湯横に車を止めたのは10時を過ぎていた。プリウスαの後部はかなり広いスペースがあり、居住性快適で二人で寝るにはちょうど良い。昨晚の調査でスカイラインは8時にしか開かないことは判っているので車中でゆっくり寛ぐことができた。足湯に浸かり、ラーメンの朝食後、スカイラインの九十九折れを走り、広々とした8合目の駐車場に着く。朝が早いせいか車の数も少ない。9合目まではリフトがあるが山屋のプライドがこれの利用を許さない。しばしの葛藤の末、結局この際へんなプライドは捨てて身の丈に合った登山をしようという結論に至りリフトで上がることにする。この選択は実に賢明であったことが下山時に判明するのであるがそれは先のことになる。リフト降り場は鳥海山(岩木山にもこの名のピークあり)であるが、すでにガスで視界がなくなりつつある。涼しいのは歓迎だが、これほど視界が悪いとただ足元を見ながら黙々と登るのみではわざわざ東北まで来た甲斐がない。風もかなり強くなってきた。ガスで濡れた岩場を慎重にしばらく登ると頂上に出た。人影もまばらな山頂で2度目の握手。</p> <p>頂上からの眺望は全く望めず、神社に参拝し風の来ない岩陰でゆっくり休憩後、下山にかかる。下りは登りよりも慎重に岩場を下り鳳鳴ヒュッテを越えて8号目分岐に至る。往路はリフト降り場からここで登山ルートに合流したが、復路はここから8合目駐車場まで歩いて下ることにする。樹林帯の中の風も通らない濡れた岩や泥濘の道が続く結構歩きづらい。こんな若者向きルートは我々には当然不向きであり、上りにリフトを使用した決断が正しかったことを改めて知った。下りもリフトを使用しなかったことを悔やみつつ8号目の駐車場に下山。岩木山登頂を果たしここで今日の午後の予定を見直すことにする。</p> <p>計画では白神山地の「二つ森」を歩く予定であったが、ちょっと時間的に無理なようなのでせめて白神岳の登山口ぐらいは見ておくという計画に変更する。昨日通った鱒ヶ沢経由で日本海の海岸線を千畳敷、不老不死温泉を通り、白神岳登山口から林道に入る。ほんのしばらくでかなりでかい非難小屋に着くが広い駐車場には1台の車が駐車されているのみで閑散としている。世界自然遺産に登録されたにしては人気なさそうなのはその自然が東北の人々にはそれほど珍しいものではないということか？すでに歩いてきた八甲田にも奥入瀬にも岩木山にも自然はいっぱいでブナ林もたくさんあった。</p> <p>さわいでいるのは都会人だけなのかも知れない。さらに能代、八郎潟干拓地の中の直線道路を一路南下。男鹿半島の海岸線を忠実に辿り今日の泊り場には割合早く着くことができた。夜は「なまはげ太鼓」のライブを鑑賞。</p>
8/1(木) 曇り	9:10 17:30 18:30	男鹿グランドホテル発 湯の台温泉 (鳥海山荘) 湯の台駐車場 (車中泊)	移動(男鹿半島入道埼～角館～湯の台温泉)

< 嶽温泉コース >



8/2(金)	4:00	起床
曇り時々	4:30	湯の台駐車場発
小雨	5:10~15	公園道路駐車場
	5:40	滝の小屋
	6:15	一本
	7:15~25	河原宿小屋
	7:40~45	雪渓入り口
	9:10	雪渓終了
	10:30	薊(あざみ)坂
	11:40~50	七高山
	12:35	御浜分岐
	14:20~30	雪渓終了
	14:40~50	河原宿小屋
	16:05	滝の小屋
	16:25	公園道路駐車場
	19:10	月山しづ温泉 (かしわや泊)

### <湯の台コース>



今日はちょっとロングランになりそうであるが、相棒には割合簡単に登れそうだと思わせているので早朝の出発にも苦情は出ない。公園道路駐車場には昨夜来の車中泊の人達もいる。隣の車の二人は鹿児島からIヶ月前から北海道、東北を回りここに来たと話しをされた。上には上がっているものだ。頂上付近には雲が掛かっているものの視界は割合良い。支度をして早々に出発。とは言ってもポレポレ速度は順守して石畳のしっかりしたルートを進む。しばらくすると滝の小屋に着く。一息入れていると小屋の親父さんが出て来て「ここで泊ると早く行けるぞ」と言う。今回は小屋に泊まる計画ではないので次回はそうすると答えるに止め先を急ぐ。河原宿小屋のちょっと上から雪渓が始まるのでここでアイゼンを装着する。相棒はなれた手つきで4本爪を付けている。こちらは冬山用の出っ歯の12本爪とちぐはぐな装備ではあるが付けられないよりはましだ。雪渓は真直ぐに上部に延びているがガスが湧き始めて視界が悪くルートがはっきりしない。とりあえず左のシュルンドに沿って直登すると雪渓が切れたので左の尾根に登りしばらく進むも正規のルートではないらしい。右の方から声が聞こえてくる。我々は左に寄りすぎたようだ。再びアイゼンを付けて雪渓を右にトラバースして行くと小雪渓の上の正規ルートに出た。ここからは花畑が続き、色々な花が咲き乱れている。コバイケイ、白山ふうろ、狸々ばかま、しなのきんばい、ちんぐるま、シヤクナゲ、その他名前を知らない高山植物が一面。薊坂からは岩のだらだら坂を御浜分岐からは急登になる。小雨も降り出したので雨具を着てザックカバーを付ける。登るにつれて視界もさらに悪くなってきた。伏拝岳からは天候が良ければ絶好の稜線散歩ができるところだろうが、今日は全く叶わずただ目の前を見て歩くのみ。そのために行者岳付近でルートを誤り元の場所に回り込んでしまったが、原因は朽ちた標識を見落としたことと視界の悪さよるものであった。最初から登りは12時を一応の限度にしていたがこの天候では先に期待が持てそうにもなく丁度予定の時刻も迫ってきたので七高山で引き返すことにした。行者岳まで戻るとルートを求めてうろろうしている登山者に会う。我々が間違えたのと同じ場所だ。しっかり教えてあげてから伏拝岳から御浜分岐を経て薊坂に下る。小雪渓、大雪渓をアイゼンを効かせて下るが相変わらず視界が悪く楽しいはずの雪渓歩きもただ歩くのみ。何事も先の見えないということは不安なものだ。雪渓の切れたところでアイゼンを外す。ここで今から登るというツアーの大集団に会う。彼らのもたもたとアイゼン装着に手間どっている姿を見るとこの先が思いやられる。上に抜けるのは夜になるだろう。我々は先を急ぐ。河原宿小屋、滝の小屋を経てようやく公園道路駐車場に着いて雨具を脱いだが予想どおりのロングランであった。しかし、無事に歩けたことに感謝、しっかりと行動を共にしてくれた相棒と固い握手を交わし三座目の登山活動を終えた。

その後、酒田、鶴岡経由で月山しづ温泉まで車を飛ばすも到着がずいぶん遅れたが夕食の山菜料理が待っていてくれた。



8/3(土)	4:30	起床
曇り時々 小雨	8:30	かしわ屋発
	8:50~9:00	姥沢駐車場
	9:25	リフト乗り場
	9:40	リフト降り場
	10:15	姥が岳
	10:40	金姥
	11:07	牛首
	12:20~40	月山
	13:15	牛首分岐
	14:15	姥沢小屋分岐
	14:20	リフト乗り場
	14:50~15:00	姥沢駐車場 (車中仮泊)
8/4(日)	7:00	豊田着

### <姥沢コース>



みちのくの山旅もあと1座を残すのみ。今日こそは晴れてくれよの一縷の望みは朝から立ち込めるガスで早くも断たれた。宿泊条件に盛り込まれている弁当、水、リフト往復券を受け取りゆっくり出発。姥沢駐車場はすでにかなり混んでいてさすがにこの山の人気の高さが伺える。もっともこのコースは我々がそうであるようにリフトが使えるお気楽最短コースであることもその理由のようだ。雨が降り出したので昨日の汚れの付いたままの雨具を付け出発。駐車場から「環境美化協力金」200円/人を徴収するゲートを抜け、リフト乗り場に至り入山届けをした後、リフトに乗車する。降り立った相変わらずガスで視界の悪い中を宿のお勧めの計回りコースを取り先ず姥が岳を目指す。雪渓を越えるともうそこは別世界。山腹のニッコウキスゲ、コバイケイソウの群落を眺めながら歩を進める。遠望が利かないので近くに咲いている花を観て歩くしかないがこれも贅沢な悩みか。金姥、牛首を過ぎ頂上近くなってくると風も強まってきたが、ガスの切れ間越しに月山神社が見えてきた。人の数も増えてきた。ここまで来てお祓いを受けないわけにはいかず行列に並んで500円/人を叩いて「霊験新たか」なお祓いを受ける。復路は牛首分岐から左ルートを下る。途中の雪渓歩きを楽しみ、リフトからはシモツケソウの群落を眺めて駐車場に戻り無事に登山活動の全日程を終了した。鶴岡で下山報告、お土産を購入し夕食を取ったら二人とも急に里心が出たのか近くの宿には泊まらずにこのまま帰ろうということになった。

その後、山形自動車道で庄内空港まで行き過ぎるハプニング(鶴岡西ICへの分岐の鶴岡JCTが判らず)もあったが延々と日本海側の海岸線を辿り、朝日まほろばICから日本海東北、北陸、上信越、長野自動車道、中央道を経て東海環状道に入れば暑い豊田の我が家はすぐそこにあった。



### <総括>

術後の一周年記念に計画したみちのくの山旅は相棒の強力なサポートもあって無事終了した。天候もピーカンの炎天下ではなく、常にガスが湧き、冷却効果を与えてくれたことも幸いしたのか、それほど苦戦したこともなく四座を完登でき、今後の生活にちょっとは自信を持つことができた。視界が悪くどの山も全く眺望が利かなかったのは残念であったが、それにも勝る収穫を得た思いでいっぱいである。又、酸ヶ湯で吉田君と旧交を温めたことも強く印象に残っている。いずれにしても今回の山行は天候に恵まれ、相棒に恵まれた実に爽快な山旅で会った。ベルクハイル！